

第 40 号

編集・発行

富山県障害者社会参加推進センター
〒930-0094 富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館(サンシップとやま) 3階
Tel (076) 444-0213 Fax (076) 433-4610
E-mail
fjp25520@nifty.com
ホームページ
https://www.toyamashin.jp/

富山県障害者社会参加 推進センターだより

令和6年度障害者週間キャンペーン実施

社会参加推進センターでは、障害者週間が始まった12月3日(火)午前7時30分より、広く県民の方に理解していただくため富山駅南北自由通路において、県障害福祉課、健康課の県職員及び加盟団体の協力を得て総勢17人が参加し、PR活動を行いました。

障害者週間のポスター入賞作品をデザインしたポケットティッシュと、福祉作業所にて作成した小物類をセットにし、通勤・通学者への手渡しを主として800セット配布しました。

第30回富山県障害者絵画展開催

10月4日(金)～6日(日)、第30回富山県障害者絵画展を富山市アピアショッピングセンター1・2階パッピィ広場で開催しました。

今年度も県内の福祉施設や個人から油絵や水彩、パステル・水墨画・ちぎり絵・切り絵などの力作79点の展覧があり、多くの方にご覧いただきました。



富山市アピアショッピングセンターにて



最優秀賞ポスターをデザインしたポケットティッシュ図柄



富山駅構内にて

令和6年度地域障害者作品展開催

令和6年度の地域障害者作品展を県内4箇所(高岡市ふれあい福祉センター・アピアショッピングセンター・上小町町ふるぎふれあい館・小矢部市役所)において開催しました。

この事業は、障害者施設や障害者団体、また、社会参加推進センター事業のワークショップ【陶芸教室・ほんわかアート教室】での作品を展示し、多くの県民の皆さんにご覧いただきました。



小矢部市役所にて



結婚相談事業「出会いと語らいの集い」開催

9月7日(土)総勢30名が参加し、昨年同様婦中町やまふじぶどう園において『出会いと語らいの集い』を開催しました。当日は天候にも恵まれ、鈴なりのぶどうの下で昼食をはさみ、久しぶりに交流を深めました。

※お知らせ・結婚相談事業「出会いと語らいの集い」については、今年度限りとなりました。



婦中町やまふじぶどう園にて

令和6年度「心の輪を広げる体験作文」および「障害者週間のポスター」募集事業

毎年12月3日～9日は「障害者基本法」により「障害者週間」と規定されており、富山県では毎年「心の輪を広げる体験作文」や「障害者週間のポスター」を県民から募集しています。令和6年度の体験作文の最優秀賞は、中学生の部では、富山市立三成中学校3年 結城蘭さんの「自分だけの個性」、高校生部では、富山県立南砺福野高等学校1年 西川和奏さんの「知ることの大切さ」、一般の部では、伊藤はるみさんの「盲導犬を連れた方との出会いについて」が選定されました。

また、ポスターの部では最優秀賞に中学生の部で射水市立小杉南中学校3年 山本大智さんの「支えよう障害者」が選定されました。

なお、「心の輪を広げる体験作文」・「障害者週間のポスター」の最優秀賞作品は、富山県代表として内閣府へ推薦し、西川和奏さんが佳作を受賞されました。体験作文の最優秀作品を紹介します。

「心の輪を広げる体験作文」最優秀賞

「中学生の部」

「自分だけの個性」

富山市立三成中学校 三年 結城 蘭さん
私の妹は、ADHDという発達障害を持つ

ています。軽い方なので一度見ただけでは、分からないと思います。

ADHDは注意欠如多動症と呼ばれ、話を集中して聞けない、なくしものが多いなどの「不注意」、おしゃべり、順番をまてないなどの「多動性」、「衝動性」の特徴が見られることを言います。確かに妹は、少しの間でもじっとするのが苦手だし新しく買った物はすぐなくす、もしくは落書きしたりして物を大切にしない。性格も客観的に見れば、人の言うことは聞かないし、自分の思い通りにならないとすねて、ブツブツ独り言を言うこともしばしば…。こういう面を見ると周りからはただ、わがままで他の人があわせないといけないから面倒なだけに思えます。

しかし、今の時代そんな人は珍しいわけはありません。理解しようとしている人たちもいます。私の祖母は妹の発達障害をよく思っています。祖母にとって発達障害は、「足し算もまともに出来ない子供」悪く言ったら、「バカ」だと思っただけです。祖母は、「みんなのように普通のクラスに入って。」と、よく妹に言っています。妹の態度や行動には腹が立つけれど、それより私は「普通」ってなに？と思っただけです。障害をもっている人は「普通」ではないのか。どんな人が「普通」と言われるのか、と…。妹の年上に対する行動や態度は、少し難ありですが妹にも優れたところがたくさんあります。例えば記憶力です。一度通った道はほとんど

覚えてるし、学校で劇をするときには全員のセリフを丸暗記して練習していました。このように、他の人たちとは頭一つぬけているところもあるのです。妹も、ほめられると嬉しそうにしています。

「人はほめられて、よくのびる」という言葉があります。失敗して注意する場面でも、まっすぐ努力している部分や上手くいっている点をほめる事が大切です。当たり前前にできると思っても妹には案外難しいこともあります。だから、注意した後は具体的にもっとこうしたらいい。など分かりやすい例をあげて、気を付けるようにうながします。

世界には様々な障害を抱えている人がたくさんいます。その中で「発達障害」は見ただけでは分かりにくいかもしれません。しかし「障害」は誰しもが抱える可能性があり、もっている人が悪いわけではありません。みんなそれぞれ一生懸命今を生きているのです。

「障害」がある人もない人も、みんな他人よりも優れている自分だけの個性をもっています。その自分の個性を生かして、のびのびと生きていけるように、互いに相手を認め合える社会にしたいと思っています。

「高校生の部」

「知ることの大切さ」

富山県立南砺福野高等学校 一年 西川 和奏さん
私が中学校三年生のとき、祖父が大腸がん

を思った。祖父は大腸がんのステージ3になり、手術でストーマをつけることになった。ストーマとは、人工肛門のことで、腹部に手術によって作られた、便や尿を排出するための出口のことを言う。そして、祖父はいわゆる「オストメイト」になった。

手術を終えた祖父は、今まではまるで別人のようになった。今までは、田んぼの様子を見に行ったり、地区の行事に積極的に参加したりして、外にいるイメージが大きい祖父だったが、今では部屋にこもりがちになった。外や人がたくさんいるところに行くところ、パウチという便や尿をためるところが、心配になるからだと言っていた。また、おなかに力がかかることが怖くなり、昔から続けていた農業を辞めた。そうして、祖父だけでなく私たちの生活も180度変わった。私たちは、祖父に合うような、おなかに優しいご飯を作ったり、オストメイトに対応できるようにトイレを作ったりして、祖父が生活しやすい環境を整えた。だが、私は祖父の病気についてよく分からず、明るく元気だった祖父が徐々に元気がなくなるところ見ることにしかできなかった。私は、今までは違う祖父を見て、祖父との関わり方が分からなくなった。

ように、私は祖父と話すことを心がけて生活した。何気ない会話だが、祖父が笑ってくれる。それが、私にとってはとても嬉しかった。私は、障がいをもっていても嬉しかったのうに過ごしているのが気になり、障がいについて知ろうと思った。そのために、私は出かける時は障がい者のピクトグラムを見つけておくことを意識した。祖父が一番困っている排泄の問題を少しでも理解できれば良いなと思ったからだ。今までは意識して見ることがなかったけれど、探すといういろいろなマークがあることを知った。盲人のためのマークや車いすのマーク、赤ちゃん用のマークなど一目で分かりやすいマークが多かった。特に、オストメイト用のマークはとても分かりやすく、見やすかった。だが、オストメイトの方でも使えるようなトイレは、大きなショッピングセンターや病院などしかなく、あまりオストメイト用のトイレがないことに気づいた。私は、祖父が外に出かけたがらない気持ちに分かった気がした。私たちは、どこでもトイレが使えるけれど、オストメイトの方はとても不便に感じていると思った。これは、オストメイトだけでなく、どの障がいの方も生活しづらい環境だと感じた。

て、あらかじめ「福祉避難所」を知っておく重要性を感じた。福祉避難所とは、特別な配慮が必要な方を受け入れるための環境が整った避難所のことだ。障がい者が不便なく避難所で生活できるように場所があることは、私たち家族にとっても心の拠り所になると思った。私は祖父が障がい者になるまで障がいについてあまりよく分からなかった。きっと、オストメイトの存在や福祉避難所についても知る機会がなかったと思う。だが、周りの人が障がいを持つ前に、障がいについて知っておくべきだと感じた。知っておくことで、身の周りに障がいを持っていての方がいても、困らずに会話ができたり、その人に合うサポートをしたりできると思うからだ。また、私は祖父が大腸がんと診断される前から、体調を悪そうにしているところをよく見ることがあった。その度に病院に行こうと言っても祖父は病院に行かなかった。あの時、もっと早くに祖父を説得して「病院に行っていたら」と後悔するときもあった。これから先、そんなことが起こらないように、私は病気や障がいの知識をつけたい。私は、障がいを持っている方が暮らしにくい環境ではなく、暮らしやすい環境に変えるべきだと思う。そのためには、周りにいる私たちが障がいについてよく知っておくことが大切だと思う。障がいをもっていても気軽に外に出かけられるような社会になってほしい。

「一般の部」

「盲導犬を連れの方との出会いについて」

伊藤 はるみさん

バスを待っていた時に、盲導犬を連れられた女性の方が来られました。

私のほうから「盲導犬、大人しく待っておられますね」と話しかけると、その女性の方は、気さくに「この犬が来てから外に出るようになってきました」と言われ、それに盲導犬がやってくるまでにだいぶ待ったのをおっしゃっていただきました。そして、盲導犬とは、いずれ返すというのを聞いて、お別れする時は、さみしいだろうなと思っていました。

その女性の方は「もっと盲導犬が増えてくれたらいいんですけど・・・」と言って、バスが来て、先に盲導犬が乗ってから女性の方が乗られて座りました。盲導犬はその前にびつたりと座って大人しくしていました。感心しました。降りる時は、女性の方がアナウンスを聞いて、リードを引っ張って盲導犬に知らせて立たせていました。

同じところでバスを降りて、お礼を言っただけになりました。

少しの時間でしたが、盲導犬に会う事がないうち、偶然会えて話もして頂き、その女性の方は、突然の話しかけでどう思われたか分かりませんが、私は、盲導犬は、目の見えない方のために寄り添って大人しく行動する姿に感動しました。

人にも寿命があるように盲導犬にも引退する事がある事を知り、かなしくなりました。視覚障害者と盲導犬との生活を見た事は、ありませんが、盲導犬がやってきてからは、不安な気持ちをやわらいでくれたり、外に出てみるという一歩、勇気を与えてくれるんだろうなと思って思いました。

盲導犬の賢さや優しさを知りました。大切な人を守る『責任感』、一緒に過して育まれる『信頼』。

盲導犬と出会った事によって、色々思いました。私もし目が見えなくなったら、突然の事で、相手が怖さ・不安な気持ちになると思えます。それがずつととなると、生活がどうなるのかと。

それが一人で生活している時になると、余計に、とまどい困り動けなくなると思っています。どうしたらいいんだろうって。

出会って話しをした女性の方の事を思うと、一人と一匹でバスに乗って出かけるのを見て、すごいなと思って思いました。

それが何回目かで、盲導犬がやってくるまでに、どれくらい待ったかは聞けなかった・・・そう思うと涙が出ました。

その後、会う事はありませんが、どうか、盲導犬と生活出来てますように。

犬も、おとろえたり、寿命がきたりして、いつか離ればなれになると思うとつらい。私は、精神障害者で不安になり、つらくな

る時がありますが、周りの方に支えられて、生活出来ています。出会った女性の方を思っで、めげずに過したいと思っています。

女性と盲導犬に出会い、話が出来て良かったです。ありがとうございます。

● 身体障害者のひろば ●

● 第4回カローリング競技練習会開催

9月26日(木)富山県総合体育センターにおいて、会員30名(10チーム)参加の下、富山県カローリング協会の指導を受けて、今回初めて競技会を開催しました。

競技は時間の都合で2戦行い、1位は富山市Aチーム(原・仲井・大田) 2位は大沢野Aチーム(佐藤・悟道・宮崎) 3位は砺波Aチーム(池端・神下・山下)でした。

● 第51回ボウリング大会

10月12日(土)富山地鉄ゴールデンボウルにて参加者44名が参加し、第51回障害者ボウリング大会を開催しました。

この大会は、障害別(上肢の部・下肢の部・内部の部・オープン参加)で順位が決まるため、参加者の皆さんは、真剣に競技を楽しんでおられました。



● 第2回リハビリ教室開催

10月23日(水)～25日(金) 2泊3日で氷見市「ひみのはな」において19名が参加し、第2回リハビリ教室を開催しました。初日は温泉療養を主とし、2日目の午前中は、氷見市にある本川藤由商店でオリジナル醤油作り体験と高岡の瑞龍寺を拝観し、午後からは「ひみのはな」において、ほんわかアート教室「クリスマスキャンドルホルダー」作りをしてみました。



● 障害者女性健康指導教室(料理教室)開催

10月31日(木) 黒部の生地コミュニティセンターにおいて、女性会員21名参加し、当日は、ハマチのさばき方について楽しく受講してきました。



ハマチのさばき方教室

● 第37回富山県身体障害者福祉大会開催

11月30日(土) 黒部市国際文化センター コラレにて、第37回富山県身体障害者福祉大会を多くのご来賓のご臨席を賜り、会員及び関係者総勢150名参加のもと盛大に開催しました。

当日は、会長挨拶後6名の功労者の表彰式を行い、ご来賓からの祝辞、心の輪を広げる体験作文の朗読、そして協会からの令和6年



黒部市コラレにて



アトラクション(ラブバンドの演奏)

● 障害者女性健康指導教室(フラワーアレンジメント教室)開催

12月26日(木) 富山県民共生センター・サンフォルテにおいて、今年最後の事業として総勢27名が参加し、フラワーアレンジメント教室を開催しました。

正月用の花飾りらしくオアシスに大菊・おたふく南天・カーネーションなどを生け、講師より今年も皆さん「才能あり」との評価を受けました。



【お問い合わせ先】

一般社団法人富山県身体障害者福祉協会
富山市安住町5-21サンシップとやま3階
TEL (076) 432-6331
FAX (076) 433-4610

● 視覚障害者のひろば

社会福祉法人

富山県視覚障害者協会だより

● 「日本視覚障害者団体連合北信越ブロック大会」新潟県で開催

昨年度は本県が主管した同大会は、11月30日(土)・12月1日(日)、新潟市において本県からも16名が参加して開催されました。

今回の研修会テーマは、「能登半島地震から学ぶ」で、講師の石川県視覚障害者協会理事長から、1・5次避難所や2次避難所で県・市町や眼科医会と連携して支援にあたっていたことや、各市町の協力の下に障害福祉サービスの継続利用を図ってきたこと、会員の固定電話が安否確認にほとんど役立たなかったこと等、今後の災害対策を検討するうえでも貴重な報告を聞くことができました。

また、日本視覚障害者団体連合会長からは、「中央情勢」として、関連する省庁の動きや、「歩きスマホ」と視覚障害者のためのナビゲーションシステムとの取り扱い、マイナ保険証への対応等、当事者としても関心の高い報告がありました。

その他、各分科会では北信越ブロックとして課題とされている諸問題等について2日間にあたって協議を重ねるなど、コロナ禍を経



て対面開催でこそ得られる交流や課題解決の大切さを実感しながら無事に日程を終えました。

●令和7年度前期の

主な事業計画(予定)をお知らせします。

●5月25日・26日 千葉県

第77回全国視覚障害者福祉大会

●6月予定

(福)富山県視覚障害者協会定期会員総会

●6月8日 石川県

第52回北信越グラウンドソフトボール大会

●7月6日

ボランテアと利用者交流会

●8月24日

第74回点字競技会・第26回パソコン競技会

●9月6・7日

宿泊研修

●9月28日

第51回富山県視覚障害者球技大会

グラウンドソフトボール、サウンドテーブルテニス

以上の事業の他、文化・スポーツ・家庭生活を支援する各種教室、点字・パソコン・歩行指導、点訳・音訳ボランテア養成・研修事業等、視覚障害者の社会参加促進活動を通して実施しています。

【お問い合わせ先】

〒930-0077

富山市磯部町3丁目8番8号

TEL (076) 425-6761

(福)富山県視覚障害者協会事務局まで

聴覚障害者のひろば

●第36回全国ろうあ高齢者大会 無事終了

全国から585名集まる

2024年9月26日から29日まで富山市内

で開催。26日は全日本ろうあ連盟高齢部常任

委員・代議員会、27日は講演会、懇親会、28

日は式典、アトラクション、スポーツ大会合

同開会式、29日はゲートボール競技大会、グ

ラウンド・ゴルフ大会との内容で実施しました。

27日の講演会では、手話パフォーマー・コー

ディネーターの南瑠霞さんが「手話ドラマの裏

で活躍する多くのろう者たち!!」のテーマで、

自身が出演・手話指導の経験から、たくさん

のろう者スタッフが関わっていることを紹介、

最近はろう者役はろう当事者が担うようにな

り納得感が増した。ろう者は手話を生み出す

力があり、生き方を教えてくれると語りまし

た。続いて「平和を願う」のテーマで、広島県

ろうあ連盟理事の大西章雄さんから「被爆者家

族として 昭和20年8月6日ヒロシマ」。富

山聾史研究グループ会員の竹川秀夫さんか

ら「伝えたい富山大空襲の経験」の講演があり、

戦争の悲惨さの語りを受け、

参加者一人ひとり、戦争・紛

争が続く世界状況の中、平和

を考えさせられました。

28日の午前中は大会式典・

議事が行われました。恒例の



80歳以上の参加106人にお祝い
が贈られました。最高年齢は
96歳。特別お祝いのタオルが
贈られました。

議事では、デイサービスづ

くりとろうあ高齢者施設の早

期設置、手話言語法・条例の

制定、旧優生保護法の被害者支援と優生思想

の根絶、緊急事態時にろうあ者の命が守られ

安心して生活できる社会、東京2025デフ

リンピック成功へ協力の5つの大会決議そし

て大会宣言を提案、採択されました。

午後のアトラクションでは、富山県生まれ

の野崎誠さんが「手話の魅力〜人生の先輩から

いただいた宝物〜」のテーマの講演。デフファ

ミリーに育ち、ろう文化の先駆者、米内山明

宏さんと出会い東京へ。NPO法人しゅわえ

もんを設立し、きこえない子どもたちの教育

に取り組むとともに、演劇集団「男組」のメン

バーとしても活躍しています。手話に誇りを

持とう、本物の手話を語り継ごうと訴えまし

た。手話パフォーマンスキいろぐみのステー

ジでは、「小さな世界」や「こ

の手で歌おう〜指文字の歌」、

手話の群舞「大自然の歌」、客

席と一体になった楽しいス

テージでした。

29日は、スポーツ大会が行

われました。ゲートボール



競技は21チーム、118名、グラウンド・ゴルフ競技は団体戦21チーム、個人戦147名が熱戦を繰り広げました。グラウンド・ゴルフ競技は、過去最高の参加数でした。

●ろう教育を改めて考えられさせる

映画だった！ 映画「ヒゲの校長」上映会

2024年12月8日(日)滑川市の西地区コミュニティホールで映画「ヒゲの校長」上映会を行いました。この映画は昭和初期、口話法が広がり手話が禁止された時代にろう者の言語として手話を守った大阪市立ろうの高橋潔校長を描いたものです。

午前の部と午後の部、2回上映、合計172名が鑑賞しました。

映画を見た高齢ろうあ者たちは「昔のろう学校を思い出した。」「手まね」はみっともなとか、口話の練習をさせられたが無理だった。映画はすごく良かった！」と目を赤くしておりました。



【お問い合わせ先】

社会福祉法人富山県聴覚障害者協会

富山市木場町2-21

TEL (076) 441-7331

FAX (076) 441-7305

メール info@tonichokyo.or.jp

ホームページ

http://www.tonichokyo.or.jp/index.html

知的障害者のひろば

富山県手をつなぐ育成会

●令和7年度県予算要望

令和6年11月12日(火)、富山県厚生部・有賀部長をはじめ、特別支援教育、雇用・就労関係の各課に対し、要望活動を行いました。

最初に育成会の取り組みとして、「親なき後」に備えて、本人たちが地域で安心して生活できるよう、「親から地域社会へのバトンタッチ」を合い言葉に、仲間同士での勉強会をすすめている事を説明しました。

私たちが目指す「本人の社会自立」(親離れ・子離れ)に向けて、高齢(中重度)知的障害者の住まい(受け皿)の拡充、中核機関による適切な成年後見制度の相談や後見人候補とのマッチング、地域社会へ向けてのより一層の理解啓発など、親や本人が抱える喫緊の課題への支援を働きかけました。

また、能登半島地震被災後に会員の皆さんから寄せられた体験や不安、要望をまとめ、具体的な防災対策の推進を強く訴えました。

具体的には、災害時における障害者への合理的な配慮の洗い出しを進めること、福祉避難所の開設訓練や運営の仕組みづくりの推進、個別避難計画やサービス等利用計画書にも緊急事態に備える対応をわかりやすく盛り込むこと等を提案しました。

有賀部長との懇談、関係各課との意見交換を通して、地域生活での困りごとや複合的な生活課題を抱える本人、家族の相談を受け止め、関係機関と市町村が連携しながら、包括的に支援していく仕組みづくりが必要であると改めて実感したところです。



予算要望

今後、知的障害者本人や家族の抱える悩みや問題を具体的に伝え、地域社会で安心して生きていくことができるよう支えていきたいと思います。

●2月 育成会「松の木プロジェクト」啓発セミナーを開催します

富山県育成会あげて取り組んできた「松の木プロジェクト」の活動が4年目となりました。

これまで仲間同士での勉強会を重ねてきた結果、この活動の目的は、単に親なき後の準備にとどまらず、「親から地域社会へのバトンタッチ」を目指す活動であることを明確に意識することになりました。

さらに、障害のある本人の社会自立を目指すためには、多くの支援(支柱)で支える地域共生社会の実現が不可欠であり、そのための地域連携の必要性等にも気づきました。

今回のセミナーでは、学校や福祉事業所、相談支援等、本人の応援団ともいえる「身近な支援者」の方々と共通理解を図り、「親なき後

も」障害者本人が安心して生活できる仕組みづくりを共に考える機会とします。

障害のある方、ご家族、支援者、障害福祉に関心のある地域の皆さま方など、多数ご参加いただければ幸いです。

■親から地域社会へのバトンタッチ

「あなたも」支柱になってください」

令和7年2月22日(土)13時～16時

富山県民会館 6階611号室

詳しくは、富山県育成会ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ先】

一般社団法人 富山県手をつなぐ育成会

〒930-0094 富山市安住町5番21号

TEL (076) 441-7161

メール toikusei@minos.ocn.ne.jp

ホームページ <http://toyamaikusei.jp/>

精神障害者のひろば

●りんご狩り体験とお菓子作りの集い

秋も深まった昨年11月、魚津市内の家族会が集まって、りんご狩り体験とお菓子を作る集いをしました。こころに障がいを抱える当事者と家族の会が、魚津市内には三つあります。この季節は、天候が荒れやすく急に肌寒くなったりもします。そこで晴れているならばりんご狩り、天候によっては室内でできる

内容で企画しました。

会場は魚津もくもくホール(上中島多目的交流センター)です。会議室や調理実習室、多目的ホールなど備えた複合施設です。

最初は近くのりんご農家に移動して、りんご狩りの体験をしました。当日はうす曇りの空で寒くありません。ちょうど良い天候になりました。たわわに実ったりんごの木の下で、生のりんごジュースや数種類のりんごの食べ比べ、さらには、りんごの無い季節に好評の乾燥りんごの試食もさせて頂きました。水分が無いにもかかわらず無添加で、濃縮されたりんごの甘みがあります。摘み取りはみんな初めての体験です。りんご園の中に散らばってお目当てのリングゴを収穫しました。この農家では無農薬、有機肥料での栽培を続けておられ、不作の時期にも備え、柿などの果樹にも力を入れておられます。お別れにいただいた袋には、大きな柿やりんごが入っていました。

その後、もくもくホールに戻り、調理実習室をお借りして焼きりんごのパンケーキを作りました。調理方法に難しい手順はなく、ホットプレートで輪切りのりんごを柔らかく味を濃縮し、さらにホットケーキの素を使うことで、誰にでも失敗なく出来上がります。冷蔵庫に忘れた、味の落ちたりんごでも充分美味しくいただけます。コッは、芯を抜いた穴にバターをいれることです。砂糖も加えシロツ

プとなります。皆さんの出来栄えといえ、当事者も含めた初めて参加のグループは程よい仕上がりに、賑やかなグループはしっかりと焼き色がつきました。大きさも様々、焼き色など見栄えの違いはありますが、それはそれでみんな楽しい時間を過ごしました。

焼きりんごのパンケーキを味わいながらいろいろ語り合いました。こころに障がいを抱える当事者を持つ家族はなかなか外に出られません。福祉制度はあれども人手(家族支援)がないからです。利用できたとしても、少しでも家計にと外(パート等)に出ます。午後の3時間程度が集まりにはちょうど良い時間です。家から出て、語らう時間も良いものです。いちごの季節、ぶどうの季節はどうだろうかと話が出ました。最後、施設のフロアで新鮮な野菜を購入して解散となりました。

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人

富山県精神保健福祉家族連合会事務局

〒930-0085

富山市丸の内2-3-8 桜井ビル3F

TEL・FAX (076) 461-7110

